

(別紙)

(悪臭)

- (1) 現地調査結果では特定悪臭物質は基準値未満であった一方、事業計画地外の草地の影響により臭気指数が基準を超過した地点があったことから、事後調査はその影響を回避できる時期においても実施すること。

(水質)

- (2) 水質の調査地点の上流側において事業計画地以外からの流入水が想定されることから、本事業による影響を把握するにあたり、事業計画地からの放流水の BOD (生物学的酸素要求量) の調査結果について、評価書に記載すること。

(地形・地質)

- (3) 現地調査では凝灰岩の風化による粘土化が確認されており、安定計算モデル図内の安全率図では、すべり円弧端部がこの風化凝灰岩を通る形状となっていることから、予測条件とした風化凝灰岩の物性値について、その設定根拠及び妥当性を明らかにすること。
- (4) 切土及び盛土の施工に当たっては、現地調査にて確認された風化凝灰岩の存在を踏まえ、施工中の法面や地盤の変状の有無を確認しながら、安全性の確保に努めること。

(植物・動物・生態系)

- (5) 事前調査で確認された両生類は移動距離が短いことから、工事中に確認された場合は別の場所に移動させるなどの環境保全対策を計画的に実施すること。
- (6) 第 5 期以前の拡張工事における植物調査結果も含めて外来種の数が相対的に増加している傾向であることから、事後調査においては、種数だけではなく分布の観点も含め外来種の影響の把握に努めること。

(景観)

- (7) 埋立完了後の緑化のフォトモンタージュが緑単色で示されているだけであるため、具体的な緑化イメージを評価書に示すとともに、樹種の選定においては、周辺の植生や景観に配慮すること。

(温室効果ガス)

- (8) 今回採用する準好気性の埋立手法によるメタン発生量の軽減効果を分かりやすく説明するにあたり、嫌気性手法と比較した CO₂ 換算結果を示すこと。